

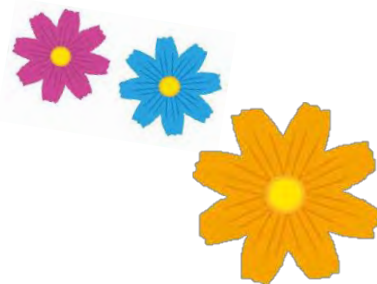
ゆめぐみ 春  
～春・受け入れ～

発達領域：時間の理解  
個性の発達



〈新しい生活がはじまりました！〉

夢組は5名でスタートしあっという間に2カ月が経ちました。初めての環境に保護者の元を離れると泣いていた子どもたちですが、保育者が子ども一人一人との関わりを大切にすることで徐々に笑顔が増えてきました。最近では好きなおもちゃを見つけると、手に取って遊ぶ姿も見られます。保育者は子どもと同じ目線になって遊ぶことを意識したり一人遊びに集中している時はむやみに声を掛けず、子どもと目が合った瞬間に声を掛けてコミュニケーションを取ることを大切にしています。また、保育者が側にいることで安心感にも繋がっているのではないかと感じる日々です。これからも子どもとの距離感を大切に関わっていきたいと思います。



〈五感をたくさん刺激しています！〉

室内には様々なおもちゃがあり、子どもたちは棚から気になるものを取り出し、「ガラガラ」や「シャカシャカ」と振って鳴らして音を楽しんだりボールなど転がして追いかけていたりしています。また、口におもちゃを入れることで安全性を確かめたり、見たり触ったりすることで視覚や感触など五感を刺激しています。口におもちゃを入れているとつい止めてしまうことがありますが、子どもにとってそれは五感を使って安全の確認をしているため保育者は側で見守っています。





### 〈子どもとの関わりを大切にしています〉

乳児育児担当制を取り入れているため、食事・睡眠・排泄の生活面はできる限り担当の保育者が援助しています。子どもは特定の大人と関わることで愛着関係を築き、安心できる人や環境を認識・理解します。

初めての給食がスタートし最初は椅子に座って食事をするのが難しかった子どもたちですが、毎日同じ順序・同じ場所を意識したり、声掛けを大切にしたりすることで少しずつ理解し、椅子に座って食事が出来るようになりました。座るときの姿勢にも気を付け、足が届かないため足置きを置いたり、背中と椅子の間に空間がある時はクッションを入れたりしています。今、食事はスプーンで援助することが多いですが食べたいものに手を伸ばして手づかみ食べをしようとする姿も見られます。手づかみ食べは触って感触を知ったり、目で見て形や色を認識したり五感をフルに使っています。「自分で食べることができた」という楽しさや嬉しさをたくさん経験できるようこれからも進めていきたいと思えます。また、睡眠や排泄も徐々に慣れてきている様子が見られ、少しずつ時間の流れや生活リズムが整ってきていると感じています。これからも一人一人に合わせた関わりを大切に安心して生活が出来る環境を作っていきます。

